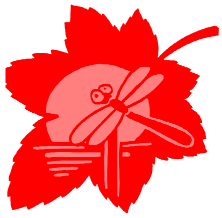
２００２．１０.１０

マルトミです

10・11 月号　（隔月刊）

拝啓

　仲秋の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。



　日ごろは格別のお引立てをいただき誠に有難うございます。

　１０月に入り県内では田圃の稲刈も一部を除いてほぼ終了しました。農家の皆様、大変ご苦労様でした。

　秋も深まりキノコなど山の幸が豊富な季節を迎えました。秋晴れの空の下、落ち葉を踏みしめての山歩きはとても気持ちのいいものです。この時期、食べられるキノコの勉強を兼ねた採集会などもあちこちで開かれているようですし、キノコは食べたいが当たるのが怖いとお思いの方もこの機会に挑戦してみてはいかがでしょうか。

　さて当社では、１０月２６・２７日の除雪機・農機展示会を中心に、１１月２０日までの期間、除雪機特別キャンペーンを実施いたしております。お手持ちの除雪機の御更新等をお考えでしたらぜひお得なこの機会にご相談下さいますようお願い致します。またそれと併せて点検整備等のご案内もさせていただきますので、どうかそちらもご利用願います。

　末筆ながら皆様の益々のご健勝をお祈りいたします。　　　　　　　　敬具

マルトミカレンダー（１０月～１２月）　○印は休業日

１０月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

１１月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

１２月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

２６・２７日は展示会です。

※積雪の状況により休日も修理対応のため営業します。

除雪機の使用前点検について

そろそろ冬のシーズンが近づいてきました。いざというときすぐに快適な作業が行えるよう、ぜひお早めに除雪機の点検をお願い致します。
点検のポイントを下記にいくつか挙げておきますのでご参考にして下さい。
なお、詳しくは取扱説明書をご覧願います。

① オイルはきちんと入っていますか。

とくにエンジンオイルの量が少なかったりひどく汚れていたりするとエンジンの焼きつきの原因になります。エンジンが焼きついてしまうと、修理に日数がかかりご不便をおかけしてしまう上、修理費用も大変高くついてしまいます。
機械のご使用前にはまずオイルの確認をお願いします。

② バッテリーが上がっていませんか。

ほとんどの除雪機はスイッチでエンジンがかけられるようセルモーターが使われています。したがってバッテリーが上がってしまうとエンジンを始動することができず、また、多くの機種ではシューターの投雪方向や高さを変えたりすることもできなくなります。
スイッチを入れてみてバッテリーの力が弱っていれば充電が必要です。

③ 古い燃料が入っていませんか。

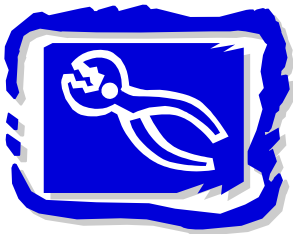
燃料タンクやキャブレター内に古いガソリンが入っていると、キャブレターのつまりの原因となります。始動のスイッチを入れてみて、バッテリは十分あるのにエンジンがかからなかったり、かかってもエンジンが波打つようなときはすでにキャブレターがつまっていることが考えられます。その場合は、修理が必要となりますのでこちらにご連絡をお願いします。

④ サビついているところはありませんか。

軸の回転部分やワイヤーなどが錆びついて動きが悪くなっていたら、浸透剤やスプレーグリスなどですべりをよくしておきましょう。また、グリスニップルがついていたらグリスアップも忘れずにお願いします。

⑤ ベルトが切れかけたり伸びたりしていませんか。

ベルトが切れかけたり伸びたりしていると、除雪中に切れてしまったり、動力が十分伝わらず雪が飛ばなくなったりします。ベルトがしっかりしているかどうか事前にお確かめください。



※　点検の方法などで何かご不明の点がありましたらどうか
お気軽におたずね下さい。

※　ただいま当社では除雪機の時期前点検を実施中です。
期間中(10 月 31 日まで)は料金もオトクですのでぜひ
御利用願います。

この秋もヤンマーの丸ハンドルコンバインが
各地で大活躍しました

上越市富岡の小関博之様は、
今期ヤンマーの三条刈り丸ハンドルコンバイン C328 を御購入下さいました。
御使用後の感想は、「旋回がスムーズにできてまるで車を運転しているようだ。作業していても疲れなかった。それと稲刈り後の圃場が荒れずにその後の作業もとてもやりやすかった。とてもいいコンバインだね。」とおほめの言葉をいただきました。



☆☆☆ 丸ハンドルはヤンマーだけ。 これからのコンバインは丸ハンドルです。 ☆☆☆

ウラギンシジミ



毎年、夏も盛りを過ぎそろそろ秋の気配が感じられる頃になると忽然と姿を現す蝶がいます。よく晴れた日中、山道を行く足元からパッと飛び立ちすばやく周囲を飛びまわってはまた地面にとまる小さな蝶。そっと近寄ってみるとま大きな紋。裏と表の鮮烈なコントラスト。それがウラギンシジミです。数ある日本の蝶の中で私が一番好きな蝶です。

ウラギンシジミはもともと南の蝶として知られ、私が子供のころには上越ではまったく見ることはできませんでした。蝶に興味をもち標本を集め始めたときからずっと、図鑑で写真をながめてはため息をつくばかりの憧れの蝶でした。私がこの蝶に初めて出会ったのは、忘れもしない高校の修学旅行のときで、京都の石山寺の境内で、裏手の木の茂っているあたりを人目もかまわず捕虫網片手に歩き回っていると、いきなり飛んできて目の前の木の葉に止まったのがこのウラギンシジミでした。一瞬息が止まり、それから夢中で振った網の中でたしかに羽ばたいているすがたを見たときの震えるような感動を今でもはっきりと思い出せます。そしてこの採集品は、「京都石山寺 1970 年 10 月 19 日」と記されたラベルと共に今も標本箱の中で燦然と輝いています。

そんなウラギンシジミですが、最近言われる温暖化の影響か次第にすみかを北に広げ、いつのころからかこの上越でも時々姿を見かけるようになりました。いまでは数も多く、地元の蝶愛好家にとっては別に珍しい蝶ではなくなりました。ただ、この蝶は卵や蛹ではなく成虫で冬を越すため本来なら春にはまた姿を見せるはずなのに、上越では春から夏にかけてはほとんど見られず、秋ころから急に目につくようになります。おそらく、南国生まれのウラギンシジミにとって雪の積もる上越の冬はあまりに厳しく、その多くは春を待たずに死んでしまうのでしょう。そして翌年、運良く生き残ったわずかな親蝶が卵を産み、それから代を重ねて、ちょうど秋頃に数が増えてまた人の目に触れるようになるのだと思われます。

ウラギンシジミに出会うには、冬眠に入る前１０月いっぱいくらいまでがチャンスです。場所は近くの雑木林がいいでしょう。良く晴れて暖かい日ならば、道路の水たまりに降りて吸水していたり、熟して落ちている柿の実に来ていたり、木々のこずえを銀色に輝きながらすばやく飛んでは木の葉にとまったりする美しい姿を見ることができるかもしれません。因みにこの蝶のメスは、表が黒地に白い紋でオスとは色が違っています。あまり飛びまわらず目立たないせいか、ウラギンシジミが増えたいまでもメスにはめったに出会うことができません。（ミ）

㈱マルトミ　上越市西田中２３６－９　TEL(025)524-1181　FAX(025)524-1184

E-mail: info@maru-takada.com　http://www.maru-takada.com